

入会のご案内

行政への提言を含め、事業を力強く推進していくためには、会員の一層の事業参画と協力が不可欠です。そのため当公益社団法人では地域の活性化と文化の向上により寄与すべく常時会員を募集しています。会費は以下の通りです。

- 個人正会員 一口10,000円、一口以上
- 団体正会員 一口10,000円、三口以上
- 賛助会員 30,000円以上

ぜひ入会をご検討くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
なお、手続き等の詳細は事務局にお問い合わせください。

お問い合わせ

TEL.0742-49-0861

当公益社団法人への寄附のお願い

当公益社団法人では、個人・法人からの寄附を募っています。
公益社団法人ならではの税の控除が受けられます。

当公益社団法人は、奈良県知事より2013年3月、公益性を有する組織として公益社団法人認定されています。そのため、当公益社団法人への寄附については税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

■詳しくは税務署にお尋ねになるか、
国税庁のWebサイト（<http://www.nta.go.jp/>）をご確認ください。

寄付については通常寄附と特別寄附があります。
特別寄附では使途や管理運営方法を指定できます。

- (1) 通常寄附金
当公益社団法人の会員を含む広く社会一般に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。
寄附金額の50%以上を公益目的事業に使用します。
- (2) 特別寄附金
上記寄附金のほか、個人または団体から受領する寄附金です。
寄附者が寄附金の使途及び管理運営方法に条件を付けることができます。
- (注) 金銭のほか金銭以外の財産権（有価証券等）を含みます。
なお、これらの寄附については当公益社団法人のWebサイト（<https://www.s-s-l.jp/>）をご参照ください。

寄附のお振込先口座

■南都銀行 本店営業部 普通預金 No.0355495
■振込先名義：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ 理事長 尼崎勝己

お問い合わせ・お申し込み先

当公益社団法人（担当：遠山） TEL.0742-49-0861 E-Mail:info@s-s-l.jp

2017年度 活動報告書

公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

Contents

【支援事業】	英語パフォーマンス甲子園	2-3
【プロジェクト】	伝統建造物に関連する匠の技を無形文化遺産に	4-5
【プロジェクト】	安堵町 地域振興構想	6
【連携事業】	大学その他の機関との連携	7
【カルチャー事業】	奈良ウェルネス倶楽部	8-13
【About SSL】	理事紹介、定款、組織・運営の概要、新人紹介	14-15

英語パフォーマンス甲子園

当公益社団法人は「英語パフォーマンス甲子園実行委員会」主催のもと、次代の青少年を育成するために年に一度日本文化発祥の地・奈良で開催される、高校生が主役の大会「英語パフォーマンス甲子園」を、共催団体として活動を推進しています。



アイデンティティを重視 「自分」を伝える

「英語パフォーマンス甲子園実行委員会」は2015年に発足し、行政（奈良県・奈良市）をオブザーバーに、内閣官房参与（当時）・元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使の本曾功氏が顧問、帝塚山大学の岩井洋学長が委員長に就任してスタートしました。実行委員には教育関係者以外に（公社）奈良市観光協会専務などの観光関係者なども含まれています。

開催理念には、多様な文化を認め合い異文化理解を深めて持続可能な社会づくりをめざすユネスコの理念が盛り込まれています。

グローバル化が進展する社会においては、文化的背景を異にする多様な人々の交流が広範囲にわたって展開すると予想され、またより一層先を見通すことも困難になります。そのため、「どう生きるのか」についての自らのアイデンティティを確立し、自分の本当に伝えたいことを的確に伝え、相手の伝えたいことを的確に受け取ることで、信頼関係を築いていく必要があります。

一方、2022年度から高校教育の現場ではアクティブラーニングに力をいれた英語教育が実施されますが、生徒一人ひとりにとっては、課題を身体ごと受け止め、楽しみながら自分で積極的に課題を解決していく新たな姿勢が必要となります。

こうした流れを踏まえ、この大会は単に語学力やパフォーマンスのすばらしさを競う大会ではなく、何をどのように伝えるのか、異文化の相手に身体ごと伝えようとする表現力や伝達力を評価の基準としています。



奈良を中心に関西の高校が参加 プレ大会を開催

当公益社団法人では、本実行委員会の事務局も当公益社団法人内に置くとともに、理事長も実行委員として委員会に参加することで、積極的に甲子園開催の活動を進めてきました。そして8月19日（土）午後、奈良市ならまちセンター市民ホールにて「英語パフォーマンス甲子園」プレ大会を開催しました。

開催テーマは「地域文化と持続可能な社会」としました。これは、現在全ての国連加盟国が「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に取り組んでいることを踏まえ、本大会を持続可能な社会の実現に協働できる青年を育成していくひとつの機会にしたいという期待を盛り込んだものです。

奈良県を中心に関西の高等学校9校が参加し、独創性、コンセプト、表現力、英語力、チームワークを競い合いました。一方、審査委員長に村上憲郎氏（元Google米国本社副社長兼 Google Japan 代表取締役）、審査員に吉村あき子氏（国立大学法人奈良女子大学副学長）、ガー・レイノルズ氏（京都外国語大学教授）、金子啓子氏（株式会社ベネッセホールディングスCPO）、得能絵里子氏（株式会社アクティブラーニング副社長）に就任いただき、語学力だけで判断するのではなく、伝えるための表現力、プレゼンテーション力、日本の文化や地域についての理解など、従来の英語スピーチ大会や弁論大会では審査の対象になっていない視点も加えた審査をいただきました。

大会は成功裏に終了し、大阪府立豊中高等学校がグランプリ校（奨学金10万円）、関西創価高等学校と関西学院千里国際高等部の2校が準グランプリ校（奨学金5万円）を獲得しました。また、奈良県立桜井高等学校が特別賞（しかまろくん賞）に輝きました。



本大会
開催

「つながり」をキーワードに 英語×パフォーマンスで世界に発信

2018年8月24日（金）午後、奈良県大和郡山市 DMG MORI やまと郡山城ホールにて開催します。大会理念は「ESD ーつながるー」としました。後援は、奈良県教育委員会、大和郡山市、大和郡山市教育委員会、京都府教育委員会、滋賀県教育委員会、三重県教育委員会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、ESD活動支援センターが確定しています。グランプリ、準グランプリには奨学金等を用意し、応募料、参加費ともに無料です。大会に先立ち、5月26日（土）には、ESD活動支援センター次長の柴尾智子氏をお迎えし、教員や地域の方々を対象とするセミナーの開催を予定しています。



当公益社団法人は、日本の伝統的建造物に関連する匠の技をユネスコ無形文化遺産に登録する運動を推進・サポートしています。



無形文化遺産がもたらす波及効果

日本の原風景をかたちづくる伝統的な建築や町並み。それらをつくり、支えてきたのが伝統建築構法です。木や土のように生きている自然の素材を加工して利用する伝統的な日本建築並びに作庭、石垣建造などの精巧な技術は、我が国独自のものです、外国には例がありません。そして、これらの技術が継承されてきた背景には、自然と共に生き、自らもまた大いなる自然の一部だと感じつつ、常に素材の特質に目を向けて技術を磨いてきた日本人の努力と英知の蓄積があります。



しかし、これらの技術は、高度経済成長以降の産業構造の変化や日本人の価値観・生活スタイルの変化等により厳しさを増しています。建築基準法の壁や後継者不足等の問題を抱え、存亡の危機に瀕しているとも言われ、とりわけ豊かな森林資源を有し法隆寺等の伝統木造建築物が数多く存在する奈良県では、林業や伝統産業の衰退は地元経済への大きな打撃となっています。

さて、2013年に日本の伝統的な食文化（和食）がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで国内外に「和食ブーム」がまき起こり、関連業界に大きな経済効果をもたらしました。日本の建設業の市場規模は約50兆円です。伝統的な食文化と同様、伝統建築構法並びに伝統的な建築に関連する匠の技術がユネスコ無形文化遺産として登録されることで、日本的景観の保護、観光資源としての日本のまちづくりによる外国人観光客の増加、国内森林資源の活用による林業の再生・活性化と自然との共生による持続可能な社会の構築（SDGs）、後継者育成によるこれらの技術の保護・継承の促進等、建設（建築及び土木）や住宅産業分野を中心に「和食ブーム」にも勝る大きな経済効果と波及効果が生まれ、地域及び日本経済の創生・活性化が期待できます。

各省庁・業界を巻き込んだ All Japan の取り組みへ

伝統建築構法並びに伝統的な建築に関連する匠の技術のユネスコ無形文化遺産登録への活動を主導してきたのは、2014年末に梅原猛氏（哲学者）が呼びかけ人代表、中村昌生氏（京都工芸繊維大学名誉教授）を会長として発足した「伝統木造技術文化遺産準備会」です。2015年3月のキックオフフォーラム以降、「伝統構法：日本建築の匠の技をユネスコ無形文化遺産に！」というスローガンのもと、さまざまな活動を展開、当公益社団法人も同会の設立趣旨に賛同し、こうした活動をサポートしてきました。

その一環として、6月24日、奈良春日野国際フォーラム 豊〜I・R・A・K・A〜能楽ホールにおいて、「日本の伝統建築技

術と木の文化の未来〜ユネスコ無形文化遺産登録へ〜」講演&シンポジウムを「伝統木造技術文化遺産準備会」と当公益社団法人の共同主催で開催しました。伝統木造技術文化遺産準備会長の中村昌生氏の開演挨拶、奈良県知事の荒井正吾氏の来賓挨拶で始まり、2020年東京オリンピック新国立競技場の設計者である隈研吾氏（東京大学教授、建築家）の講演「新国立競技場と和の建築」、鈴木嘉吉氏（元奈良国立文化財研究所長）、木曾功氏（千葉科学大学長、元ユネスコ全権大使）、進士五十八氏（福井県立大学長、元日本造園学会長）によるパネルディスカッション「匠の技から学び豊かな未来に」と続き、当公益社団法人の川井徳子専務理事がパネルディスカッションのコーディネーターを務めました。

今回の講演&シンポジウムを通じ、伝統的建造物に関連する匠の技のユネスコ無形文化遺産登録への気運を高めてきました。そうした折、2018年2月に開催された無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議において、「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」が、2020年に登録されるユネスコ無形文化遺産（人類の無形文化遺産の代表的な一覧表）への提案案件として決定されました。しかし、その対象範囲は一部の伝統木造建築の保存・修理技術の範囲に留まっており、伝統的建造物に関連する匠の技全体をカバーするものではありません。そこで、中村昌生氏が会長を務める「一般社団法人 伝統を未来につなげる会」と当公益社団法人とが中心となり、対象範囲を広げることを要望、関連省庁や業界、政界、学会を巻き込んだAll Japanとしての活動を開始します。



東京でフォーラム開催

Next term

次年度早々には、「一般社団法人 伝統を未来につなげる会」に「伝統木造技術文化遺産準備会」を統合し、新体制にて、拡大された申請範囲での2020年（オリンピックイヤーでもある）ユネスコ無形文化遺産登録への活動をより強力に展開します。

この活動の1つとして、2018年4月28日、明治大学アカデミーホールにおいて、「普及文化フォーラム2018」(*)を「一般社団法人 伝統を未来につなげる会」の主催、当公益社団法人の共催で開催します。中村昌生会長の開演挨拶の後、内田祥哉氏（東京大学名誉教授、建築家）の基調講演「日本建築の伝統的な価値を巡って」、千田嘉博氏（奈良大学教授、城郭考古学者）の特別講演「加藤清正の名城熊本城の大普請」を行います。続いて「伝統建築技術の継承・活用で切り拓く日本の未来」をテーマとするパネルディスカッションを、コーディネーターに後藤治氏（工学院大学理事長）、パネリストに島崎英雄氏（専門学校職藝学院オーバーマイスター）、進士五十八氏（福井県立大学長、造園学者）、小林正美氏（明治大学副学長、建築家・都市デザイナー）、飯田泰之氏（明治大学政治経済学部准教授）を招いて行います。

(*) 普請とは…家を建築したり修理したりすること。建築工事。また、道・橋・水路・堤防などの土木工事。(出典『デジタル大辞泉』(小学館))

プロジェクト

今年度、さらに次年度にかけて安堵町の歴史的財産の再発掘のための調査研究を行っています。さらにその成果を生かし、観光や地域経済の活性化に結び付ける近隣の自治体との連携を模索しています。

当公益社団法人は、長年多くの方に親しまれてきた富本憲吉記念館を2017年3月に滞在型宿泊施設「うぶすなの郷 TOMIMOTO」としてリニューアルオープンする事業に取り組んできました。加えて、この施設を核にした各種イベントを開催することで、多くの国内外観光客が安堵町に訪れることとなり、雇用機会の創出にも貢献しました。また、地域創生の成功事例として多くのマスコミにも取り上げられました。

地域の経済構造改革の
先進事例として紹介されました

大正大学地域構想研究所が編集・発行する情報誌「地域人」第23号（2017年7月10日発行）に、高市早苗総務大臣（当時）、西本安博安堵町町長、当公益社団法人専務理事の川井徳子の巻頭鼎談が掲載されました。

総務省が推進した「ローカル10,000プロジェクト」に採択された奈良県安堵町の地域活性先進事業として、またノブレスグループのイノベーションマネジメント成果としての「うぶすなの郷 TOMIMOTO」の全容がわかる、8ページの巻頭特集で紹介されました。

ふるさと納税の返礼品に
選定されました

うぶすなの郷 TOMIMOTOの
開業に伴い、安堵町のふるさと
納税の返礼品（ペアランチ券、
ディナー券、宿泊券など）のラ
インナップが増えました。また、
期間限定の返礼品として、富本
憲吉のテイカカズラ模様の風呂敷で包んだ「うぶすなの
郷 TOMIMOTOのおせち」が販売されました。



ふるさと納税のおせち

安堵の偉人

安堵町（2017年10月1日現在:面積4.31平方キロメートル、人口7,374人）は、過去から多くの文化人・偉人を輩出してきた町です。古くは聖徳太子にさかのぼり、太子が斑鳩と飛鳥を馬で通った太子道、休憩のため腰掛けたと伝えられる御幸石が現存しています。晩年の住まいであった飽波葦牆宮（あくなみあしがきのみや）が安堵にあったという伝承もあります。また、戦国時代には、筒井氏一族である土豪「中氏」が活躍しました。

さらに、幕末以降、天誅組に加わった国学者伴林光平と親交があった今村文吾、文吾の甥で奈良県再配置運動を推進した今村勤三、勤三の四男でBCG接種を確立し大阪大学第5代総長を務めた今村荒男、と続きます。

そして、今村荒男と親交が深かった近代陶芸の巨匠富本憲吉は、この安堵の地で後世に残る名作の数々を生み出してきました。



安堵町歴史民俗資料館 (旧・今村家本家)

Theme 4 連携事業 大学その他の機関との連携

連携事業

当公益社団法人は、県内の大学をはじめ関係機関と連携し、地域文化や経済の活性化に寄与する活動を提案・サポートしています。

帝塚山大学
経営人類学研究会をサポート



「経営人類学」は、組織や社会の管理・運営など、経営的側面に文化的視点からアプローチする文化人類学の一分野です。この学問分野は、1993年に国立民族学博物館の会社文化をテーマとする共同研究（代表者：中牧弘允氏・日置弘一郎氏）からはじまり、本年、25周をむかえました。その研究成果は、「経営人類学シリーズ」（東方出版）や欧文書籍をはじめ、数多く出版されてきました。2015年以降は、研究会の拠点を帝塚山大学にうつし、現在にいたります。

今年度、はじめての試みとして、産官学連携に資する取り組みとして、さまざまな「仕掛け」をテーマとした公開シンポジウム（当公益社団法人が後援）を開催し、産官学各界から数多くの皆様にご参加いただきました。今後とも、帝塚山大学経営人類学研究会では、「経営人類学」研究を推進するとともに、地域社会や産官学連携に資する実践的研究を展開します。当公益社団法人も積極的にサポートしてまいります。

日本ESD学会をサポート

ESDは、人類が発展的に持続可能な社会を実現するための価値観や行動を生み出す変容の教育のことです。持続可能な社会の構築に資することを目的とし、学校、企業、行政、市民、学生等が立場・分野を越えて協働する場である日本ESD学会が2017年4月に設立され、事務局が奈良教育大学次世代教員養成センター中澤静男研究室内に設置されました。

2018年2月12日、「持続可能な社会に向けての歴史文化遺産教育の創造」をメインテーマとする日本ESD学会第1回近畿地方研究会が奈良教育大学で開催、開催に向けた実行委員会のメンバーとして当公益社団法人の川井徳子専務理事が参画しました。当日は、奈良大学名誉教授西山要一氏の記念講演で始まり、その後6か所の分科会会場に分かれ、研究者が日頃の研究成果を発表、会員と相互に研鑽し合う有意義な研究会となりました。

当公益社団法人は、今後も研究会・シンポジウム等の開催を企画・サポートするとともに、関係する機関への積極的な働きかけを行ってまいります。

2017年度 帝塚山経営人類学研究会

行事	開催日時	内 容
研究会	9月16日(土) 14:00～17:00	【場 所】帝塚山大学 奈良・東生駒キャンパス1号館 会議室 報告① 【報告者】河野憲嗣氏(大分大学) 【演題】「経営人類学の方法論に関する考察」 報告② 【報告者】川井徳子氏(当公益社団法人専務理事) 【演題】「日本庭園とは？ ～普遍性と固有性について～」 ■コメンテーター 中牧弘允氏(吹田市立博物館)
公開シンポジウム『仕掛け』の経営人類学	2018年 2月23日(金) 14:00～17:00	講演 【講演者】 芝川能一氏(千島土地株式会社 代表取締役社長) 【演題】「アートによる地域の魅力創出 ～千島土地の取り組み～」 パネルディスカッション 「地域づくりの『仕掛け』」 ■パネリスト① 中立公平氏(エデュテイメントプロデューサー) 【演題】「舞台芸術による地域活性の国際事例について」 ■パネリスト② 川井澄子氏(当公益社団法人理事) 【演題】「富本憲吉をうみだした“うぶすな”の仕掛け」 ■パネリスト③ 中嶋裕之氏 (株式会社高木包装 アートディレクター・デザイナー) 【演題】「デザインは流通を変える！ 地域ブランドの再生の仕組み」 ■コメンテーター 中牧弘允氏(吹田市立博物館館長)
	2月24日(土) 10:00～12:00	パネルディスカッション 「サービスの『仕掛け』」 ■パネリスト① 井門隆夫氏(高崎経済大学准教授) 【演題】「観光と『おもてなし』の仕掛け」 ■パネリスト② 八巻恵子氏(就実大学准教授) 【演題】「客室乗務員の仕事の仕掛け ～サービスの経営人類学」 ■パネリスト③ 吉田佳代氏 (梅乃宿酒造株式会社 代表取締役 五代目蔵元) 【演題】「蔵開きのヒミツ ～社員が仕事をしたくなる仕掛け」 ■コメンテーター 日置弘一郎氏 (当公益社団法人理事、鳥取環境大学教授)



奈良ウェルネス倶楽部は、民間としては関西トップクラスの規模と実績を有するカルチャー施設です。2007年4月から、元社会保険庁なら社会保険センター事業を継承し、厚生労働大臣認定「健康増進施設」として「こころ」と「からだ」の健康づくりをテーマに、地域コミュニティの活性化に貢献しています。カルチャー施設としては、約140名の講師陣により約270講座を常時開設しています。また、施設内だけに留まらず施設外の講座（現地講座）や出張講座、講師派遣なども手掛けており、2017年度においては、奈良県女性活躍推進課の事業である「なら結婚応援団」への参画や、高齢者の社会参加として、奈良市協働推進であるボランティアセンターに登録し、福祉施設へ「お笑い」を届けるボランティア派遣を始めました。



奈良ウェルネス倶楽部 年間講座 開講状況

■受講者件数 <2017年度>

4月～ 6月期	7月～ 9月期	10月～ 12月期	1月～ 3月期	講座数
2,699	2,295	2,530	2,501	259
				講師数
				135

■受講者件数

講座分類	教室	受講者
からだの健康づくり講座	75	803
こころの健康づくり講座	184	1,698
合 計	259	2,501

からだの健康づくり講座				
	講座名	教室数	新規講座	受講者数
1	ソフトエアロ	1		16
2	気功太極拳	8		108
3	健康体操	3		38
4	自彊術（じきょうじゅつ）	1		16
5	ジャズ体操	1		12
6	リラックス体操	1		4
7	ジャズ健美操	1		15
8	熟年ジャズ体操	3		40
9	身体スッパリ骨盤体操	1		6
10	さわやかリズム体操	1		13
11	アロハ体操	1		3
12	ストレッチ&ウォーキング	2		13
13	ヨガ	4		29
14	ダイエットヨガ&ヒーリング	1		9
15	ママ&ベビーヨガ	1		6
16	ピラティス	3		45
17	健康維持増進室	1		7
18	生活習慣病予防改善	1		18
19	ストレッチ&パワーアップ	1		6

からだの健康づくり講座				
	講座名	教室数	新規講座	受講者数
20	やさしいトレーニング	1		8
21	男のストレッチ&筋トレ	1		11
22	卓球	5		63
23	スポーツ吹矢	1		7
24	フープエクササイズ	1		4
25	フラメンコ	2		6
26	ベリーダンス	1		4
27	社交ダンス	4		40
28	ハワイアン・フラ	6		64
29	バレエ	6		62
30	バレエストレッチ	1		4
31	腰掛タップダンス®	1		12
32	タップダンス	1		9
33	ZUMBA（ズンバ）	1		9
34	山歩き	1		67
35	ゴルフ	3		11
36	ノルディックウォーキング	1		9
37	ルーシーダットン	1	○	6
38	美ウォークレッスン	1		3
合 計		75		803

こころの健康づくり講座				
	講座名	教室数	新規講座	受講者数
1	囲碁	5		38
2	英会話	11		74
3	韓国語	6		40
4	中国語	4		31
5	フランス語	2		9
6	俳句	1		10
7	短歌	1		20
8	川柳	1		12
9	コミュニケーション力アップ	1		13
10	'50代からの美塾	1		4
11	健康マージャン教室	4		101
12	大人のリコーダー	1	○	7
13	食べるアートデコもち	1	○	3
14	ソーパークーピング	1	○	4
15	写真	3		38
16	おもしろ数学考房	1		5
17	宇宙と科学	1	○	3
18	はじめての古文書	1		8
19	カラオケ	10		148
20	懐かしの名曲を愉しむ！	1		13
21	発声専門講座	1		8
22	コーラス	3		43
23	たのしいシャンソン	2		21
24	季節の歌	4		104
25	ジャズボーカルサロン	1		16
26	民謡（ひろみつ会）	1		12
27	詩吟（桂心流）	1		7
28	ボイストレーニング	2		2
29	中高年の「らくらくピアノ®」	2		18
30	大人のピアノ	8		8
31	ギター講座	1		9
32	ウクレレ講座	2		23
33	大正琴	2		11
34	中国楽器 二胡	2		8
35	オカリナ	6		58
36	沖縄三線	1	○	6
37	ハーモニカ	4		28
38	茶道（裏千家）	3		25
39	着つけ	1		7
40	和の作法	1		7
41	絵画	2		12
42	裸婦デッサン	1		8
43	水彩画	4		38
44	水彩・詩画	1		9
45	はがき絵	1		11
46	一筆画（一光流）	1		5

こころの健康づくり講座				
	講座名	教室数	新規講座	受講者数
47	日本画	1		8
48	水墨画	1		30
49	風景スケッチ	3		38
50	パステル画	1		11
51	色えんぴつ画	1		17
52	切り絵	1		6
53	ファミリー書道	1		33
54	筆遊び 楽しみの書	2	○	10
55	暮らしの毛筆	1		4
56	現代書道	1		6
57	実用書道	1		8
58	日常書道	3		29
59	ペン習字	2		21
60	筆ペン	2		11
61	木彫	1		8
62	木版画	1		6
63	和紙ちぎり絵	1		8
64	押し花教室	1		6
65	お笑い福祉士養成講座	1	○	5
66	戸塚刺しゅう	1		6
67	アートフラワー	1		4
68	パンの花	1		9
69	箱と雑貨のカルトナージュ	1		4
70	グルーデコ	2		13
71	フラワーアレンジメント	1		10
72	ドライ&プリザーブドフラワー	1		9
73	ガーデニング	1		13
74	ミニ盆栽	1		8
75	キッチンガーデン	1		4
76	手編み	4		29
77	手描友禅染	1		6
78	パッチワーク	4		41
79	洋裁リフォーム	2		24
80	和裁	3		27
81	謡曲仕舞（金春流）	1		14
82	かっぽれ・創作舞踊	1		6
83	奈良一刀彫能面	1		15
84	仏像彫刻	2		22
85	陶芸	4		16
86	バードカービング	1		10
87	中国茶講座	3		24
88	摘み菜ウォーキング	1		9
89	バードウォッチング	1		7
90	手づくりの発酵食	1		12
91	パン教室	2	○	6
合 計		184		1,698

通常講座

奈良ウェルネス倶楽部では、春と秋に新設講座の体験会を開催しています。現在の学びのニーズや伝統文化など、さまざまな角度から新講座を提案、開講しています。

〈2017年度 新設開講講座〉



ルーシーダットン



美スタイルワーク



キッチンガーデン入門



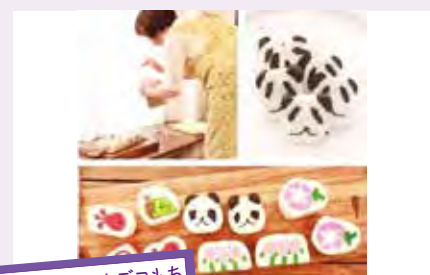
お笑い福祉士養成講座



沖縄三線



大人のリコーダー



食べるとアートデコもち



しあわせおうちパン教室



自家製レシピの発酵食教室



おもしろい書道あそびみま書



宇宙と科学



ソーパークーピング

施設外
現地講座

奈良ウェルネス倶楽部の教室は、体育室も含めて10部屋あります。しかしながら、教室内で実施する講座には限界があります。そこで、アウトドアな講座や専用設備のある講座は「現地講座」として開講しています。現地講座については、昨今の習い事ニーズにより増設したいと考えています。



ゴルフレッスン



山歩き



バードウォッチング



ノルディックウォーク



摘み菜ウォーキング



しあわせおうちパン



中国茶講座



写真



風景スケッチ

出張・派遣
講座

高齢者施設への
出張講座



ヨガ教室



フラダンス教室



書道教室

「いつまでも元気で過ごしたい」、これは誰もが願う事ですが高齢者の場合は特に切実です。超高齢化のこの時代、こころとからだの健康は大きなテーマです。奈良ウェルネス倶楽部では、施設内講座以外にも現地講座を展開し「こころとからだの健康増進施設」として地域に貢献しています。しかしながら、奈良ウェルネス倶楽部や現地講座に通えない方、特に高齢者施設にご入居されている方々から「習い事をしたい」との要望も多く、それにお応えするために講師派遣にも積極的に取り組んでいます。講師数・講座数ともに関西トップクラスの運営実績があるからこそ実現可能な出張講座です。



「園芸」教室

奈良県教職員互助組合



「カラオケ」教室

奈良県年金受給者協会



「陶芸」教室

うぶすなの郷TOMIMOTO

企業・団体への
講師派遣

近年、家庭だけでなく企業や所属団体などでライフワークバランスや健康についての意識が高まり、さまざまな取り組みがなされています。そんな各々の意識の高まりに対して、奈良ウェルネス倶楽部では、福利厚生やイベント等についてもニーズにお応えした企画を提供しています。

講座の外部発表会

カラオケ教室 発表会2017



講師：北沢 麻衣
場所：やまと郡山城ホール

カラオケ講座、北沢麻衣クラスの第13合同発表会が開催され、受講生が日頃の成果を熱唱されました。

たのしいシャンソン コンサート2017



講師：ゆうき 芽衣
場所：奈良市西部会館 学園前ホール

今年も「たのしいシャンソン講座」の発表会が行われました。受講生たちが楽しく歌いあげる姿がとても印象的でした。

日本民謡 ひろみつ会発表会

5/14



講師：藤本 ひでまさ
場所：奈良市音声館ホール

第31回を迎えた発表会。北から南までの民謡歌披露や三味線の演奏などが行われました。

第23回 仏像彫刻美術展

4/20



講師：矢野 公祥／折上 稔史
場所：生駒市芸術会館 美楽来

今年も仏像彫刻展を開催しました。100点を超える仏像・仏画が一堂に会しました。

第20回藤彩会 水彩画展

講師：橋本 正寿

場所：生駒市芸術館 美楽来

第5回淑魚会 水墨画

講師：井上 淑魚

場所：奈良県文化会館

和紙絵奈良 創作展

講師：小西 恵子

場所：奈良県文化会館

ハワイアン・フェスティバル2017

講師：田中 晴美

場所：けいはんな記念公園

万葉JAZZ LIVE

講師：芝山 真知子

場所：奈良市西部会館 学園前ホール

絵画展

講師：野口 啓子

場所：アトスペース上三条

講座の館内作品展

はがき絵 展示会



講師：村田 幸三

奈良ウェルネス倶楽部の2階通路にて定期的な展示会を開催しています。奈良の風情が感じられる作品です。

手描友禅染



講師：樹谷 美千子

1階ロビーで展示会を開催。受講者の個性が伺える作品です。絵を描く楽しさが伝わります。

社会貢献事業

「お笑い福祉士 ボランティア」



これは、国家資格や公的資格ではなく、落語家の笑福亭學光さんが個人で認定している資格です。福祉施設などを訪問して、笑いを届けるボランティア芸人の称号として2004年から始められたものです。奈良県では唯一、奈良ウェルネス倶楽部が2017年10月から養成講座としてスタートし、12月には1回目の「お笑いボランティア」を近隣福祉施設で開催しました。



奈良県婚活事業



奈良県では「結婚の希望の実現」をめざして結婚の応援に取り組んでいます。その1つに、地域の店舗や団体等と連携して結婚を応援する「なら結婚応援団」があります。そんな奈良県の施策に参画すべく、奈良ウェルネス倶楽部では結婚を応援する団体として「結婚応援団員」に登録しました。奈良ウェルネス倶楽部が持つカルチャーコンテンツを出会いイベントにミックスさせた「体験型婚活」、地域のお寺や観光資源を併せた「地域活性型婚活」を提案・実施しました。

- 10月 第1回婚活イベント 「お寺（不空院）de 婚活」
- 11月 第2回婚活イベント 「ハーバリウムづくり体験婚活」
- 12月 第3回婚活イベント 「お寺（不空院）de 婚活」
- 1月 第4回婚活イベント 「お寺（不空院）de 婚活」
- 2月 第5回婚活イベント 「動物ばんづくり体験婚活」



理事紹介、定款、組織・運営の概要、新人紹介

2017年度 理事紹介



理事長

尼崎 勝己 /あまさき かつみ

1958年関西学院大学商学部卒。奈良県卓球界の第一人者で上級公認指導員資格を取得。奈良教育大附中、奈良高、南都銀行チームの卓球部主将としてそれぞれの県大会で優勝。国体、全国大会へは選手として30回余、国際交流大会へも役員・選手として17回余出場。平成元年から25年間県卓球協会理事長を経て現在会長代行に就任。日本卓球協会本部理事、常任理事を6年、評議員を34年間務め、卓球の普及とレベルアップに尽力。永年の功績により奈良市、奈良県、日本卓球協会から数多くの表彰を受け、社会人としては南都銀行各地の支店長、南都地所代表取締役、奈良市自治連合会副会長、奈良西警察協議会会長などを歴任。2013年10月には文部科学大臣から「生涯スポーツ功労者」表彰受章。奈良ウェルネス倶楽部運営委員長。



専務理事

川井 徳子 /かわい のりこ

1981年立命館大学（文学部西洋史学専攻）卒業。奈良地方裁判所委員会委員。不動産業、西日本で6つのホテル経営などの観光業、飲食・物販業、IT・デザイン業、運送・倉庫業などを展開するノブレスグループ代表。当公益社団法人前理事長。造園技術学会発行の学術誌に独自の分析を踏まえた「庭園・邸宅ビジネスの可能性」についての論文を寄稿。近代日本庭園「植治の庭」の再生に貢献。著書に『不動産は「物語力」で再生する』（東洋経済新報社）などがある。所属学会は、日本経済学会、日本造園学会、日本ESD学会。



理事

日置 弘一郎 /ひおき こういちろう

就実大学経営学部教授。京都大学名誉教授。鹿児島大学客員教授。1972年京都大学経済学部卒。大阪大学大学院経済学研究科後期課程中退。茨城大学助手などを経て1983年九州大学助教授。2015年より公立鳥取環境大学経営学部教授。2018年4月より現職。専門は組織論・経営人類学。著書に『市場（いちば）の逆襲』（経営学原理）（エコノミスト社2000）、『出世のメカニズム』（講談社）、『文明の装置としての企業』（有斐閣）、『会社じんるい学』（共著、東方出版）などがある。所属学会は、しごと能力研究学会、経営哲学学会。



理事

飯田 泰之 /いいだ やすゆき

明治大学政治経済学部准教授、内閣府規制改革推進会議委員・同農林ワーキンググループ座長、総務省自治体戦略2040構想研究会委員。専門は経済政策・マクロ経済学。東京大学経済学部卒業・同大学院経済学研究科博士課程満期退学。2003年5月から2005年3月と、2007年4月より内閣府経済社会総合研究所客員研究員、参議院事務局特別調査客員研究員。駒澤大学経済学部准教授などを経て2013年より現職。著書に『思考の型を身につけよう』（朝日新書）『世界一わかりやすい経済の教室』（中経文庫）、『歴史が教えるマネーの理論』（ダイヤモンド社）、『地域再生の失敗学』（光文社新書）などがある。所属学会は、日本経済学会、日本経済政策学会、日本金融学会。



理事

馬場 正哲 /ばば まさあき

株式会社地域計画建築研究所主席研究監。1973年関西大学工学部建築学科卒業、同年株式会社地域計画建築研究所（アルバック）入社。取締役設計部長・総務部長・副社長を経て現職。地域計画から都市計画とともにニュータウン計画、市街地再開発事業、施設・開発プロジェクト事業、地域・産業・観光・文化振興計画、市街地・環境・景観整備計画、建築計画を担当。技術士、一級建築士、一級造園施工管理技士、認定都市プランナー、再開発プランナー、マンション建替えアドバイザー。（一社）再開発コーディネーター協会、（公社）日本建築家協会、（一財）日本グラウンドワーク協会に所属。著書に『都市再生・街づくり学〜大阪版・民主導の実践〜』（大阪市街地再開発促進協議会編・共著、創元社）などがある。所属学会は、日本都市計画学会、日本建築学会、日本観光研究学会。



理事

川井 澄子 /かわい すみこ

東京理科大学大学院（建築学専攻）卒業。東京理科大学・小布施町のまちづくり研究所にて町の景観条例や街並みについての研究活動を行う。同研究所は、「修景」を掲げた小布施町と連携し、行政・地域住民・大学が一体となった個性のある地域づくりを研究してきた。当公益社団法人では旧富本恵吉記念館のリメイク、2016年3月の「うぶすなの郷 TOMIMOTO」としてのオープンに際しては、オープン前から施設コンセプトの立案のみならず、施設の細部にわたる設え、おもてなしの心得に至るまで総合プロデュースし、地域と連携した観光まちづくりを行う。



理事

岩井 洋 /いわい ひろし

帝塚山大学文学部教授。1991年上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。帝塚山大学経済学部教授、同副学長を経て、2012年より同学長、2017年より現職。専門は、キャリア教育・宗教社会学・経営人類学。著書に『キャリアデザイン』（共著、弘文堂）、『グローバル化するアジア系宗教』（共著、東方出版）、『アジア企業の経営理念』（共著、文眞堂）などがある。所属学会は、日本宗教学会、日本社会学会、初年次教育学会、「宗教と社会」学会、国際宗教社会学会、韓国日本近代学会。

公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ 定款（抜粋）

（目的）

第3条 この法人は、地域の産業活力、地域の文化振興及び地域住民の健康福祉向上の実証研究、調査及び施策提言を行い、地域産業振興の為の施策並びに地域文化の伝統継承及び健康福祉増進の進歩普及に貢献し、もって地域活力のための具体施策に取り組み、並びに多様化・複雑化する経営課題を解決するための中小企業に対する経営支援、及び地域文化の行催事の支援並びに厚生労働省認定の健康増進施設の活用による地域住民の生涯教育の機会提供など健康福祉の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

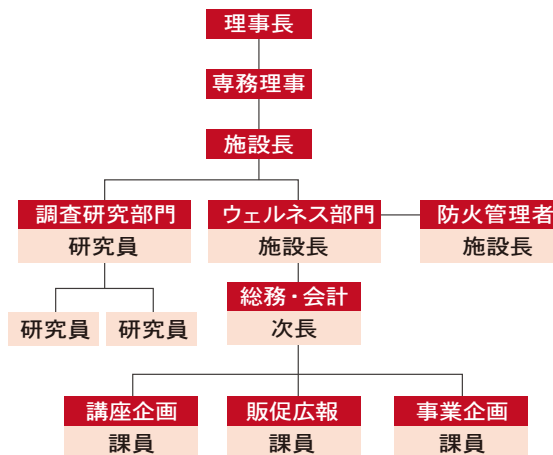
第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地域経済社会に貢献するための経済・政治・文化及びこれらの諸制度に関する調査研究並びに大学研究機関等と連携した共同の研究活動
- (2) 伝統的日本文化の行催事等慣習・風俗・歴史の研究、保存及び伝承並びに地域の行催事支援
- (3) 身体・健康づくり講座及び心の健康づくり講座の企画・運営
- (4) 前3号の事業にかかわる機関誌並びに法人活動のための研究レポート等の刊行
- (5) 中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援業務
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、奈良県において行うものとする。

組織・運営の概要

組織は2部門によって構成されています。調査研究部門では定款に基づき大学やその他の機関と共同で調査・研究活動を行い、奈良ゆかりの伝統芸能である能などの行催事の支援をしています。また、常任の研究員のほかに外部から上席研究員、客員研究員を招き、プロジェクトごとに連携した活動を展開しています。奈良ウェルネス倶楽部はカルチャー部門を担当、施設の統括責任者である施設長ほか各職員が企画立案から日常の講座運営、カウンターでの対応まで、外部の委託職員とともに業務に当たっています。カルチャー事業の性格上、原則として5月の連休、盆休み、歳末から新年にかけての休日以外は、土・日も朝から夜の9時まで施設は常時稼働しているため、ローテーションを組み担当者ごとに業務に取り組んでいます。



公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ組織体系図（2018年3月31日現在）

新人紹介

橋本 文子 /はしもと あやこ

2018年3月より奈良ウェルネス倶楽部に勤務。美術大学を卒業し、広告制作会社で約2年、紙媒体のデザイン制作に携わり、その後、保育園・児童館、美術館に勤め、施設利用者、マスコミ、時にアーティストたちとの関わり合いを通じ、教育普及や広報の分野で約8年の経験を積む。直近の約1年は、美術館の運営母体である化粧品メーカーの宣伝部Webグループにて、宣伝広告関係の一通りの業務に従事。「制作スキルをマルチに活かしながら、広報視点で当倶楽部の一層の魅力づくりとニーズを意識した取り組みを考え、日々精進してまいります」。

滝北 由子 /たききた よしこ

2018年2月より調査研究部門に勤務。8月の「英語パフォーマンス甲子園」開催に向け、英語パフォーマンス甲子園実行委員会の事務局を運営しつつ、県内外各高等学校への参加要請、報道機関対応、等にも取り組んでいる。「忙しい日々を送っています。数々のNGO/NPO活動で得た国際文化交流力、豊富な海外経験、語学力等を武器に、大会を必ずや成功させるべく精一杯がんばりたいと思います」。

今井 晴菜 /いまい はるな

2018年4月より調査研究部門に勤務。公立鳥取環境大学環境学部を2018年3月に卒業し、現在、「伝統建造物に関連する匠の技を無形文化遺産に」プロジェクトを主に「英語パフォーマンス甲子園」やSNS等を活用した広報活動にも取り組んでいる。「モットーは『周りの人を大切に。周りの人を笑顔に』です。学生時代から数々のイベントの立ち上げ・運営に携わってきました。こうした経験を活かし、周りや調和しつつも、自分の意見をしっかりと発信できる人間になることを目指しています」。

瀧口 仁志 /たきぐち ひとし

2018年3月より調査研究部門に勤務。大学卒業後約33年間、電機メーカーにて社内情報システムの構築・運用に携わり、その後5年間中小企業庁委託業務を推進。現在、当公益社団法人が推進する各業務・プロジェクトの管理・支援、関係先との調整等を担当。「豊富な業務経験と関連知識等を活かし、業務・プロジェクトの円滑な遂行に貢献したいと思います」。